

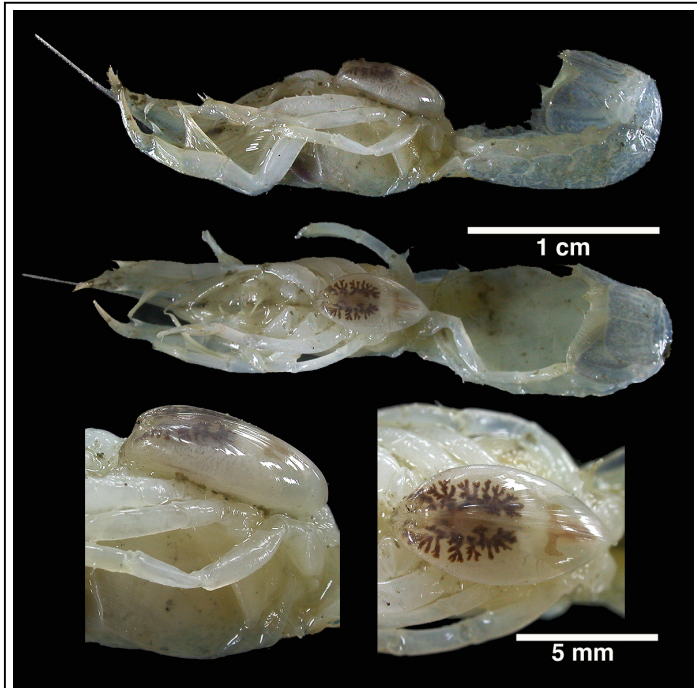
マゴコロガイ *Peregrinamor ohshimai* Shôji

【選定理由】

個体群・個体数の減少、生息条件の悪化・特殊生息環境が選定理由としてあげられる。本種は、河口域の干潟から潮下帯の砂泥底に生息するアナジャコ類の頭胸部腹面に足糸で付着する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。このような状況から本種も明らかに生息場所、生息数とも激減していると考えられる。本種は 1980年代に三重県側の伊勢湾からは生息記録がある(木村・山本, 1990)が、愛知県からは分布の概要に記したとおり名古屋市沖(伊勢湾)から 1 個体採集されたに過ぎない(木村, 2010, 2012)。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 10 mm。貝殻は両殻を合わせて背面から見るとハート型で、和名はその外形および付着部位にちなむ(庄司, 1938)。



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 6 m), 2008 年 10 月 9 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

2008 年のドレッジ調査で名古屋港沖の水深約 6 m の泥底に生息していたアナジャコ類の頭胸部腹面に付着した 1 個体のみが採集された。この名古屋港沖合の採集記録が県内からの初めての記録である。藤前干潟にもアナジャコ類は多産するが、本種が採集された記録はない(木村, 2010)。その後も愛知県内では生息記録はない。

【世界及び国内の分布】

日本でのみ記録されている。タイプ産地は東京湾(庄司, 1938)で、伊勢湾、瀬戸内海、九州の内湾域に分布する。東京湾からは原記載以来採集記録はなく、愛知県名古屋市が現在知られている分布の東限、北限である(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の埋め立てをこれ以上行わないこと、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一・山本妙子, 1990. マゴコロガイを伊勢湾で採集. ちりばたん, 21 (1・2): 12-13. 日本貝類学会.
木村昭一, 2010. マゴコロガイ, p. 194. in: レッドデータブックなごや 2010 (2004 年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一, 2012. マゴコロガイ, p. 162. in: 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野市.
庄司幸八, 1938. 珍しい共棲二枚貝マゴコロ貝. Venus 8(3-4): 119-127. 日本貝類学会.

【関連文献】

- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典, 2013. 干潟生物調査ガイドブック 全国版 (南西諸島を除く), 269pp. 日本国際湿地保全連合, 東京.

(木村昭一)